

SJ-Netで
今回観察した際の
動画を公開中です。

ホンダ SJ 検索



ある日の午前中、気になる実際の交通状況を観察してみました

親は駐車場で子どもの安全を守っているか？



子どもの降車を手助けする親

サービスエリアの駐車場で店舗側へ走り出す子ども



駐車場でひとり歩きする子どもたち

Q1 親より先に、クルマから降りた13歳未満の子どもは何%いたでしょうか？

※今回の観察は13歳未満の子ども(小学生以下)を対象とした。
年齢の判断は観察者の見解による

- 観察場所/神奈川県海老名市 東名高速道路下り線「海老名サービスエリア」
- 観察日/3月20日(土曜日)
- 天候/晴れ
- 観察時間/10:40~12:40
- 観察者/4名

Q2 駐車場でひとり歩きする13歳未満の子どもは何%いたでしょうか？

こんな事故が起きています

事故にあった子どもは、違反ありの割合が高い

平成21年に歩行中に事故にあった子ども(15歳以下)は12,891人(第1・2当事者)。その内、違反のあった子どもが約3分の2の8,515人で、他の年齢層に比べ違反ありの割合が高い。子どもの違反で最も多かったのが飛び出して、4533人と過半数を占め、次いで横断違反2194人(横断歩道外782人、走行車両の直前後611人、駐車車両の直前後532人など)、幼児ひとり歩き494人となっている。(警察庁資料)

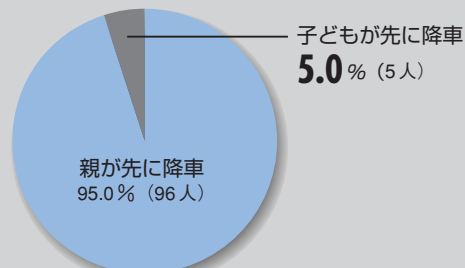
Q3 駐車車両の間をすり抜けて、店舗まで移動する親子がいました。駐車場で、親は、どんなことに注意して子どもと移動すればよいのでしょうか？

解答・解説

実際の観察から

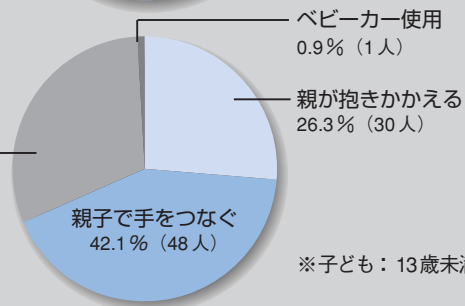
Q1の解答: 5.0%

●降車時の行動



Q2の解答: 30.7%

●降車後の行動



【親子の様子】

- ほとんどの親子連れが、親が先に降車し、子どもの降車の手助けや確認をしていた。停車後すぐに、子どもがドアを開けて先に降車する例もあった。
- 駐車スペースではない通路で停車し、子どもを降車させる親子もいた。
- クルマから荷物を降ろす時などは、子どもから意識が離れてしまうようで、その間に子どもがクルマのまわりで動き回る様子が見られた。
- 移動の際には、小さな子どもほど親が安全を守り、手をつないだり抱きかかえるなどの姿が多かった。しかし、中には6歳未満の幼児のひとり歩きも9名観察された。子どもが先頭で駐車車両の間をすり抜け、確認せずに飛び出す例もあった。また、子どもが急に駆け出して、「危ない」「待って」などと親が声をかける様子も見られた。
- 休憩を終えクルマに戻る際には、注意力が欠如してしまうようで、親の両手買った商品で埋まり、子どものひとり歩きが増え、安全を確認せず飛び出してしまう子どもが目立った。



親より先に降車する子ども

【クルマの様子】

- 高速で運転し続けた直後に、サービスエリアに入って、緊張感がとぎれてしまうのか、注意力が散漫になっていると思われるドライバーもいた。
- 駐車スペースを探すことに意識が向き、急にクルマの陰から出てくる歩行者にドライバーが慌てる様子も見られた。また、急にバックしたり、通路での徐行が不十分なクルマもあった。

Q3の解答:

- 子どもと手をつなぎ、子どもの飛び出しなどに注意する。
- ドライバーの死角になるべく入らないように注意する。
- 駐車車両の急なドア開きに注意する。
- クルマの陰から出る際は、必ず止まって左右の安全を確認する。



手をつないで、駐車場内の横断歩道を利用する家族連れ

ここがポイント

- 降車時は、大人が先で、子どもが後で。
- 乗車時は、子どもが先で、大人が後で。
- サービスエリアでは、子どもと手をつなぐなど、子どもの安全を確保する。
- サービスエリアは、ドライバーの意識が駐車スペースに向くなど、歩行者の動きを見落としやすくなる。積極的に安全確認を行い、無理な横断や飛び出しはしない。
- クルマに戻る際にも、気を抜かず、クルマに十分注意する。

ワンポイントDATA

サービスエリアなどの駐車場で死亡事故も起きています

2002~06年の、低速域歩行者死亡事故をみると、衝突速度が、10km/h以下の死亡事故の約7%が、一般交通の場所、すなわち、大きな駐車場や高速道路のサービスエリア、パーキングエリアなどで発生している。

また、0~5歳幼児の死亡事故の約50%が衝突速度20km/h以下の低速事故となっている。幼児は、駐車場などクルマの速度が低い場所でも、十分な注意が必要だ。(財)交通事故総合分析センター資料